



旭川から世界に向け、循環型トイレシステムを発信 地球に貢献。バイオ技術で巻き起こすインフラ革命

正和電気株式会社

旭川市

地震災害などの避難所で、大きな問題となっているのがトイレ。水洗が当たり前となっている昨今、上下水道がダメージを受ければトイレは使えなくなる。そこで近年、さらに注目が高まっているのが、水を使わず汲み取りも不要のバイオトイレだ。数多くの特許を取得、高性能のバイオトイレを世に送り出し、実績を築いている正和電気の橋井敏弘社長のもとには、国内はもとより、中国やベトナムをはじめとする、海外からも多くの要人が訪れる。「上下水道の整備は大変。しかしバイオトイレには、その問題を解決できる可能性がある。まさにインフラの革命を起こすも」橋井社長の声は熱を帯びる。

電気製品の卸売業から、自身の大病を契機に、環境問題への関心を高めバイオトイレに着目。「困っているものを研究する。すると世の中に良いことが増える」と橋井社長は言う。オガクズを活用し分解するバイオトイレは、臭いもなく上下水道のない場所にも設置できることから、富士山に導入されたことでも知られている。多くの観光客が訪れる旭川市の旭山動物園にも設置され、その処理能力を実証した。JICA（国際協力機構）関連の視察も多く、すでに30カ国で導入に向けた動きも進められている。橋井社長は「ある研究者から、環境悪化を日本の技術で守ってくれないかと相談を受けた。日本の技術力は海外での信用が高

い。その中でも、旭川にすごい技術があると関心を持ってもらえるのはうれしいこと」と顔をほころばせた。

海外との関係が増えると、必要になるのが語学力。そこで活躍しているのが、英語をはじめ、韓国語や中国語にも通じている25歳の若手社員、福岡県出身の大黒香那さん。「国内外からたくさんの方が会社に来る。旭川にいながら、世界中の色々な人たちに会えるのは、すごく勉強になる。仕事を任せてくれるので、責任感と共にやりがいがあります」と目を輝かせる。

正和電気の特徴となっているのが「工場を持たないメーカー」というスタイル。橋井社長は、その意図を「小さくても、連携すれば大きなことができる。さらにそれらの個性が光ることで、相乗効果も生まれる。旭川には、そんなモノづくりの会社がたくさんあり、連携できる優れた環境を有している。これを活かさない手はない」と説明。さらに「特許は大企業と対等に渡り合える大きな武器になる」と続けた。

一口にバイオトイレと言っても、その種類は実に多彩。大型タイプから、東日本大震災でも活躍した自転車駆動式のトイレ、女性用や工事現場用、さらには居間に置ける介護用家具調イス式といったものまである。「デザインや処理能力は違うが、基本的にはみんな同じ循環型。自然界で起きている現象を、少しだけ早く行っているだけ」と話す橋井社長。開発にかける探求心と、導入拡大に向けたバイタリティーは衰えを知らない。「使ってもらうことで改良改善ができる。環境問題は、子どもたちの将来につながっていくこと。我々がしっかりと取り組んでいかないと」と未来も見据える。

「仕事は会社で教えるので、経験はそう問題視しない」という橋井社長が望む人材は「目標を持ち、それをやりとげられる人」。この言葉には、やる気を持って取り組む心意気を尊重するという、会社の姿勢が示されている。やりたいことをやらせてもらうというのは、責任も伴うもの。しかし自分に課した目標は、生きる糧ともなる。「人間の持つ知能は素晴らしい」と橋井社長は言う。世界にもつながる可能性を、存分に発揮できる環境が旭川で待っている。



「よい経験をさせてもらっています」と語る大黒さん



「使っているオガクズでも臭いはない」と橋井社長



オガクズをスクリーンで攪拌し水分を蒸発・分解



災害時の非常用として使える手動タイプもある



倉庫には様々なタイプのバイオトイレが並ぶ

profile

正和電気株式会社
北海道旭川市工業団地1条1丁目3-2 tel.0166-39-7611
代表取締役 橋井敏弘
設立 1974年10月
従業員 11人 ※2016年4月現在

【求人案内】

勤務地 旭川市
勤務時間 9:00～18:00（休憩1時間）
給与 月額18万5千円（各種手当あり）
福利厚生 各種社会保険完備
休日・休暇 週休2日
仕事内容 自社製バイオトイレや電気製品の卸営業販売。一般事務。
備考 書類選考の後に面接・作文等。明るく元気で向上心のある人歓迎。